

病虫害発生予察地区報第2号

— 地区注意報 —

病虫害名 ぶどうのクビアカスカシバ

1 情報の内容

ぶどう園でのクビアカスカシバの誘殺数が早期より多く、今後幼虫による食入被害が多発する恐れがある。

2 対象地域

北信地域のぶどう園

3 根拠

- (1) 小布施町、中野市のフェロモントラップ調査では、クビアカスカシバ成虫の誘殺数が6月上旬から増加し、平年と比べて発生が早まっている可能性がある(図1、2)。
- (2) 成虫は6月から8月まで連続して発生し、粗皮の荒れた主幹部や主枝部に産卵する。
- (3) 幼虫の食入は、7月頃から多くなる。

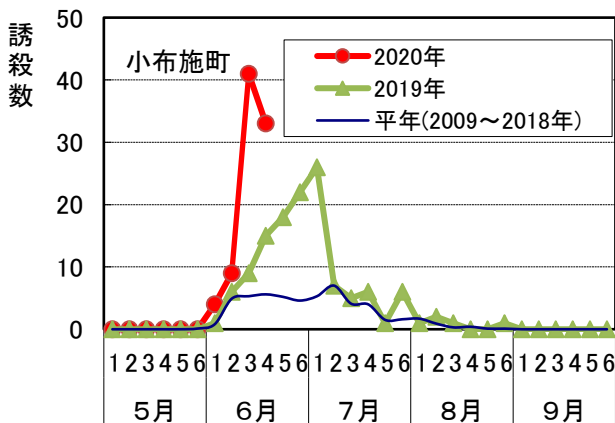


図1 クビアカスカシバの発生消長(小布施町)

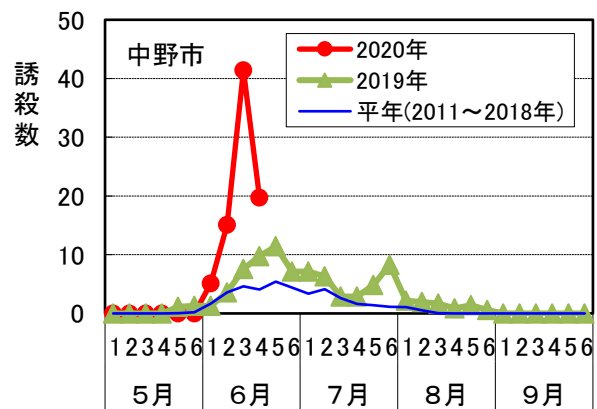


図2 クビアカスカシバの発生消長
(中野市：北信農業農村支援センター調査)



図3 クビアカスカシバ成虫

4 生態及び防除対策と留意点

- (1) 成虫はスズメバチに似ており、年1回の発生である。マユを作って土中で越冬し、6月から羽化し始める。雌成虫が樹に産卵し、幼虫が食入すると樹勢低下や枝の枯死などの被害が発生しやすい。
- (2) 食入した幼虫は虫糞や木屑を排出する。7月頃から目立ち始めるので、見つけしだい、樹皮をはいて幼虫を捕殺する。過去に食害された部位やその周辺部が再度食害される傾向があるため、注意深く観察する。
- (3) 発生が多い園では、パダンSG水溶剤1,500倍液を散布する(表1)。小豆大期以降の散布で果粉溶脱のおそれがあるため袋掛け後に行う。パダンは蚕毒、魚毒に特に注意する。ぶどうの樹勢が弱い場合には薬害を生じるおそれがあるので使用しない。また、たばこ、なすに薬害を生じるため、薬液がかからないように注意する。
- (4) パダンSG水溶剤以外のぶどうのクビアスカシバ、スカシバ類に登録がある農薬を使用する場合は、使用方法、注意事項をよく確認する。
- (5) 北信地域以外の地域でも発生について十分確認する。

表1 ぶどうのクビアスカシバに対する殺虫剤 (令和2年農作物病害虫・雑草防除基準に掲載)

IRAC コード	農薬名	希釈倍数	使用基準(収穫前日数)	使用回数
14	パダンSG水溶剤	1,500倍	大粒種 21日	5回以内

JPP ネット：令和2年6月18日現在

長野県病害虫防除所
塩川正則(所長) 小林富雄(担当)
電話：026-248-6471
FAX：026-248-6473
E-メール：bojo@pref.nagano.lg.jp
<https://www.pref.nagano.lg.jp/bojo/>